

地球規模で教育の大切さ考える

室蘭・海星学院高で「世界一大きな授業」



世界の多くの子どもたちが学校に通えていない事実などを学ぶ生徒ら

世界の現状に目を向け、教育の大切さを世界の学校でも同じ時期に考える地球規模のイベント「世界一大きな授業」が13日、室蘭市高砂町の海星学院高校(香川謙二校長、210人)で開かれた。生徒らは発展途上国の教育現状を知り、自分たちが学べることに感謝していた。

主催は教育協力NGOネットワーク。同高の市川栄作教諭が講師を務め、「世

界中では5700万人もの子どもたちが学校に通えていない。字の読み書きができず、必要な情報が手に入らなくて困っている大人が7億7400万人もいる」と説明。「すべての人が字の読み書きができるようになるには、年間5兆4千億円もの費用が必要となる」と話した。

さらに、三上未帆さん(2年)が制作した同高の発展途上国や東日本大震災被災

地への支援などの取り組みを紹介する動画を上映。生徒らは困っている人たちのために「自分には何ができるだろう」と真剣に考えていた。
(石川綾子)